

がん化学療法個人計画書

患者の状態により輸液の内容・量及び投与速度を変更する場合があります。

科名	適応がん種	レジメン名
	再発又は難治性の多発性骨髄腫	IsaKd
投与予定	休薬を含めて1クール 28 日 効果ある限り継続	

Rp	薬品名	申請投与量	計算量	実際の投与量	手技・用法	投与時間	投与日(day-)						
							1	2	8	9	15	16	22
1	生食 デキサメタゾン ファモチジン (イサツキシマブ施行日のみ)	100ml 19.8mg 20mg				点滴静注 30分	↓		↓		↓		↓
2	生食 (ルートキープ) (カルフィルゾミブ単独施行日のみ)	50ml				点滴静注 5分		↓	※ ↓ ※1クール目なし	↓		↓	↓
3	5%ブドウ糖液 + カルフィルゾミブ 溶解用蒸留水	100ml 20	#REF! mg/m ² mg/body	mg/body 実際の投与量 ml		点滴静注 30分	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
	カルフィルゾミブ 溶解用蒸留水	56	#REF! mg/m ² mg/body	mg/body 実際の投与量 ml		点滴静注 30分	↓	↓	↓	↓	↓	↓	day22のみ 生食100ml 30分かけて
4	イサツキシマブ 10mg単位でオーダー 生食250mlの規格で	10	#REF! mg/kg mg/body	mg/body 実際の投与量 ml		点滴静注 医師の指示通り	↓		↓	↓	↓	↓	イサツキシマブは2クール目以降はDay1・15のみ
5	生食 (イサツキシマブ施行日)	50ml				点滴静注 5分	↓		↓		↓	↓	

Rp	薬品名	薬価最小組み合わせ	備考
3	カルフィルゾミブ	1クール目のDay1・2 内訳 10mg 0mg 40mg 0mg	10mg1vlは5ml 40mg1vlは20mlの注射用水で溶解し、必要量を5%ブドウ糖液に混合する。(配合変化を起こすので生食等では希釈しない)
		1クール目のDay8以降 内訳 10mg 0mg 40mg 0mg	
4	イサツキシマブ	内訳 100mg 0mg 500mg 0mg	250mlの生食又は5%ブドウ糖液から本剤の必要量(ml)と同量を抜き取り、本剤を加えて総量250mlの希釈液を調製する。本剤の投与量が2000mgを超える場合は、希釈液の濃度が8mg/mlを超えない範囲で2バッグに分けて調製すること。 本剤は175mg/時の投与速度で点滴静注を開始する。Infusion reactionが認められなかった場合には、患者の状態を観察しながら、投与速度を以下のように段階的に上げることができる。ただし、投与速度は400mg/時を超えないこと。 初回: 始めの1時間は175mg/時で開始、以後30分毎に50mg/時ずつUP。最大400mg/時。 2回目以降: 始めの1時間は175mg/時で開始、以後30分毎に100mg/時ずつUP。最大400mg/時。 ★★投与速度は、別紙【サークリサ点滴速度 換算表】参照★★

併用内服薬	用量(1日量)	用法	投与期間
アセトアミノフェン	1000mg	イサツキシマブ 施行60分前	イサツキシマブ 施行日
ジフェンヒドラミン	30mg		
デキサメタゾン (レナデックス)	20mg	分1朝食後※	1クール目 day2、9、16、23 2クール目以降 day2、8、9、16、22、23

備考	
----	--

イサツキシマブ投与時はインラインフィルター(0.2又は0.22 μm)を用いて投与すること。

カルフィルゾミブは体表面積が2.2㎡を超える患者では、体表面積2.2㎡として投与量を算出すること。

※カルフィルゾミブ投与日のデキサメタゾンはカルフィルゾミブ投与の4時間～30分前に内服。

デキサメタゾンの用量・投与期間は、患者の状態で変更する場合あり。